

あやつり人形劇の人形

あやつり人形(左から、沙悟浄 標本番号H215315、三蔵法師 H215314、
孫悟空 H215312、猪八戒 H215313)

塚田 誠之(つかだ しげゆき)

本館先端人類科学研究部



チワン族は、中国の少数民族のなかで最大の人口を有する。言語はタイ系に属し南方方言がある。九〇パーセント以上が広西チワン族自治区に居住する。伝統的な文化として高床式住居、歌掛け祭り、行事食としてのモチ米食品への嗜好性などが知られているが、歴史上、漢文化の影響を強く受容しながら文化形成をおこなってきた。

あやつり人形劇(木偶戯)は広西のなかでも西部の靖西県付近のみで伝承されている。清代中ごろに外部から伝わり、遅くとも一九世紀初めまでには形成されたようである。北方から来た軍隊が当地に駐屯した際におこなわれたとか、初代の師匠がベトナムで学びもち帰ったなど諸説がある。上から糸で人形をつるす形式のあやつり人形は中国南部には少ないこともあって、また師匠から徒弟へと伝承されるため、その由来につ

いては不明な点が多い。

春節(旧暦正月)から三月までの農閑期に屋外に小屋をかけて演じられる。観光料は県内各地の勸進元の村の農民がもち寄るほか、食事や酒もふるまわれる。演目は「水滸伝」「西遊記」「三国演義」など漢族の歴史小説、とくに戦争に題材をとったものが多い。表紙は「西遊記」である。戦闘シーンや勸善懲悪の場面はつきものだ。

上演する際にはシナリオを見ないで、即興で演じられ、またチワン語のせりふ以外にチワン族の歌を交えるなど特徴がある。演じ手は一人で数体の人形をあやつる熟練のワザが求められる。伴奏者は二〜五人で、楽器には二胡・三弦やドラが使われる。人形は頭部をはずして入れ替えて使用される。衣装は専門の職人の手作りである。もつか靖西県政府が無形文化遺産として登録しよう申請している。